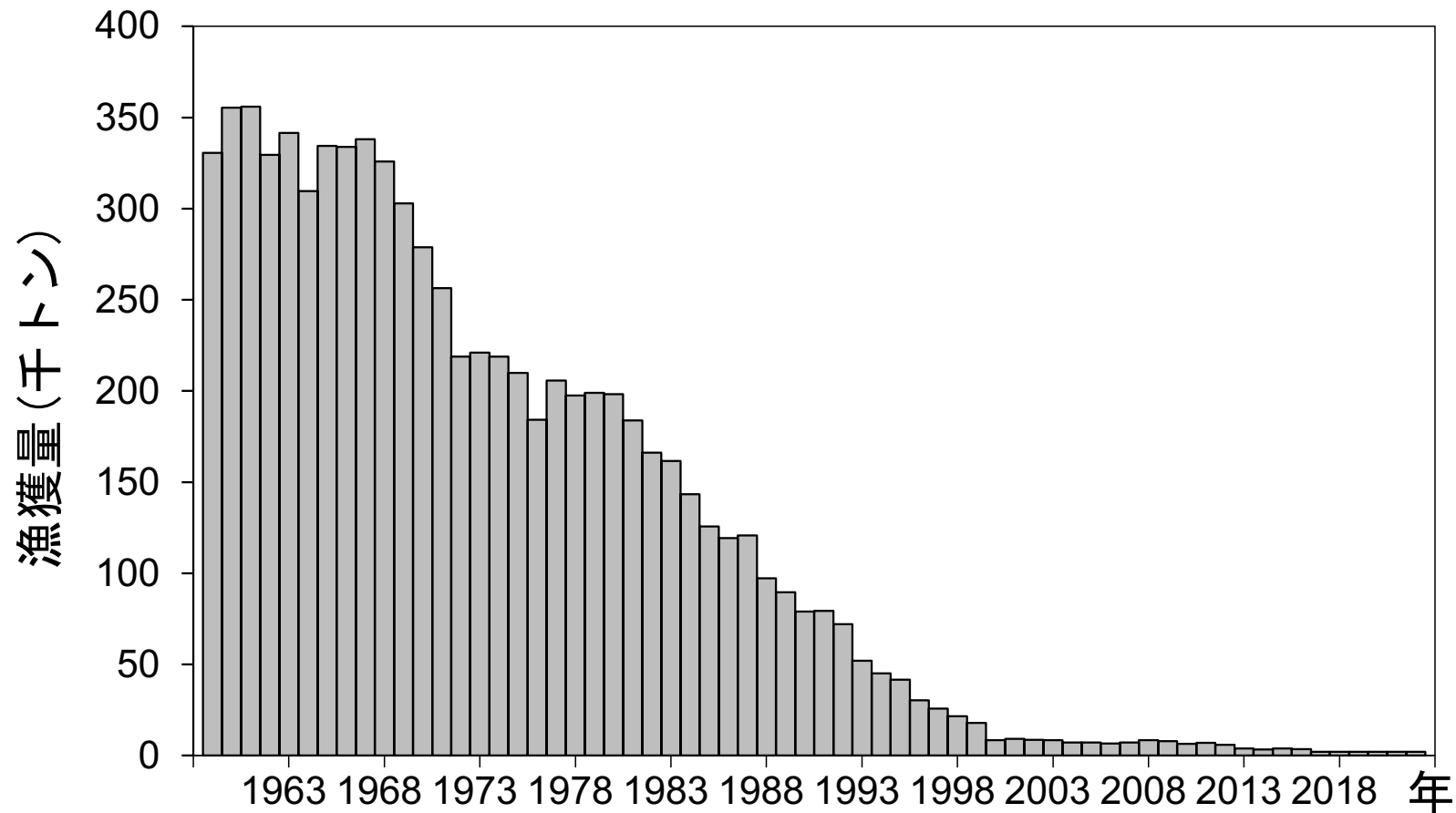




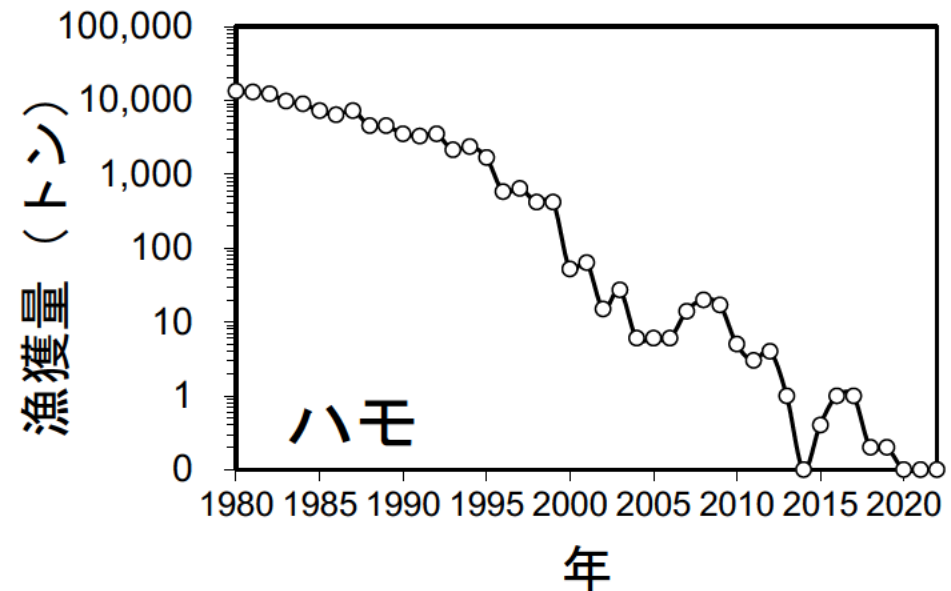
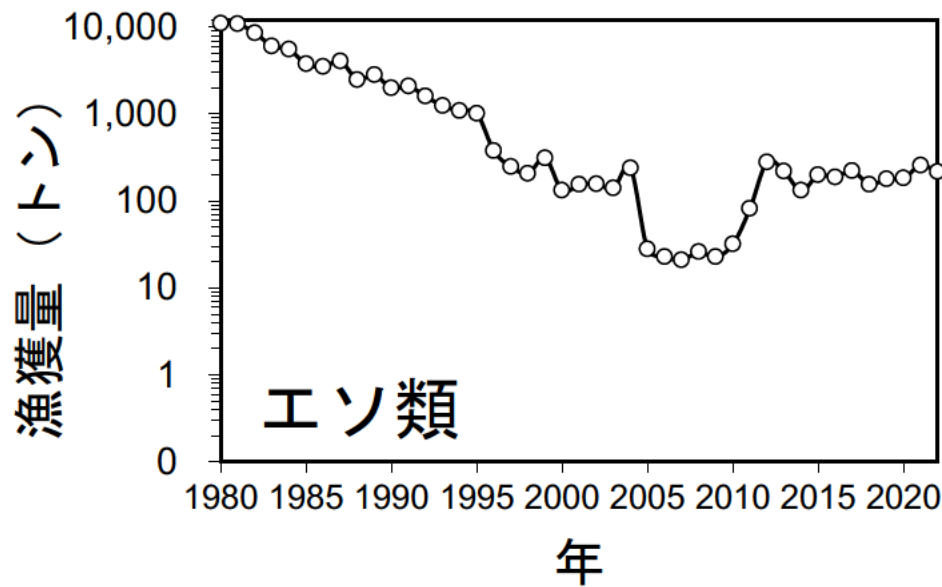
東シナ海底魚類 令和5年度資源評価結果

漁獲の動向①



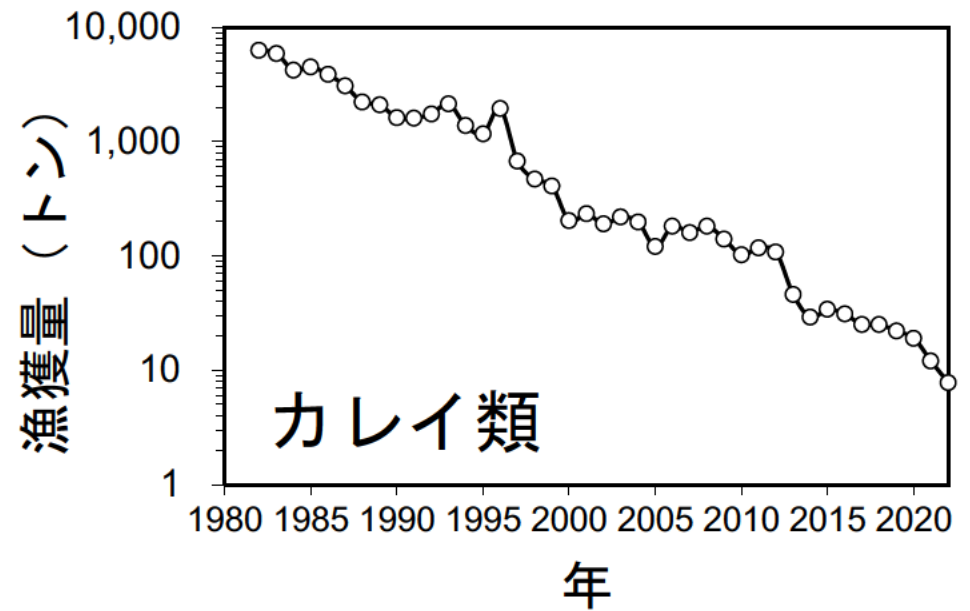
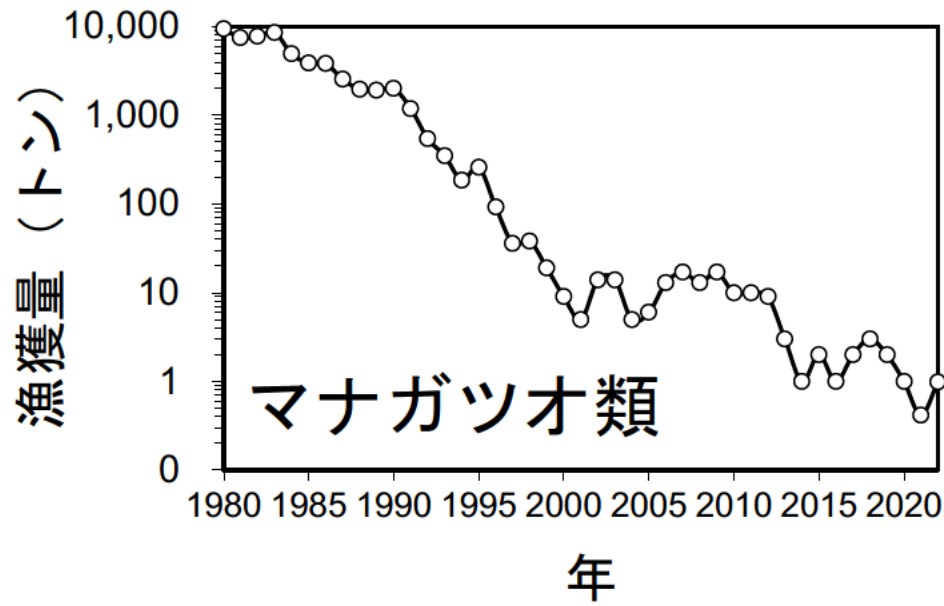
- 対象種は主に以西底びき網漁業（以西底びき）によって漁獲される
- 以西底びきによる漁獲量は、1960年代には30万トン台で推移していたが以降は減少に転じる
- 2022年の以西底びきの全漁獲量はおよそ2.9千トン

漁獲の動向②



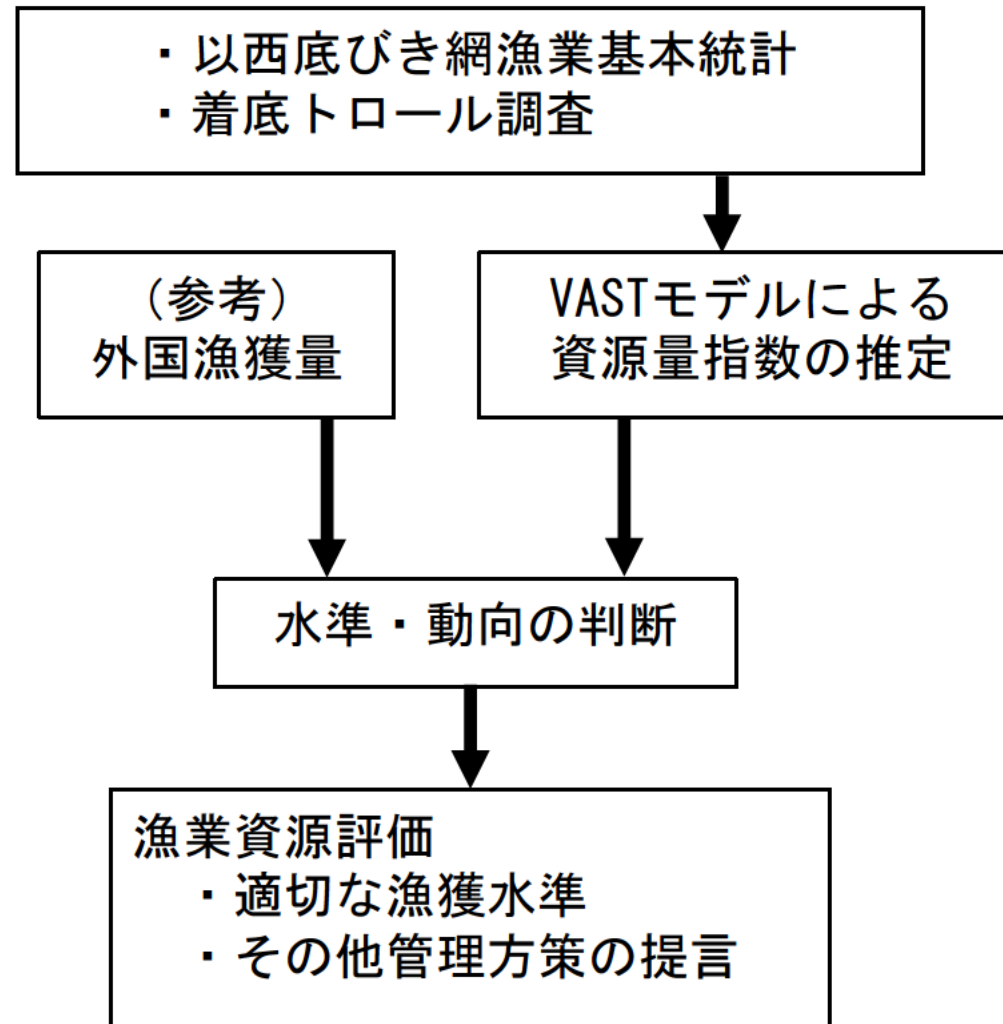
- 2022年の以西底びきによる漁獲量はエソ類（マエソ、ワニエソ、クロエソ、トカゲエソ）：217トン、ハモ：0.0トン

漁獲の動向③

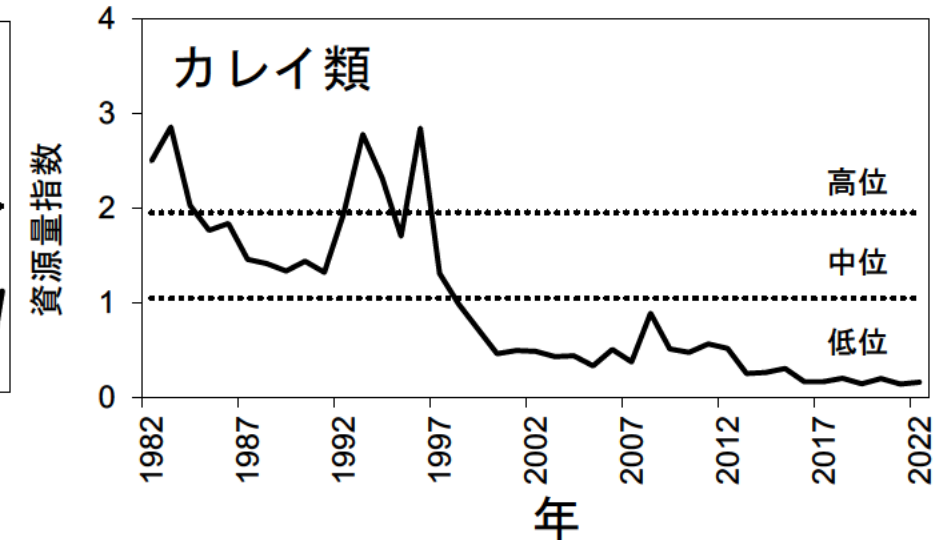
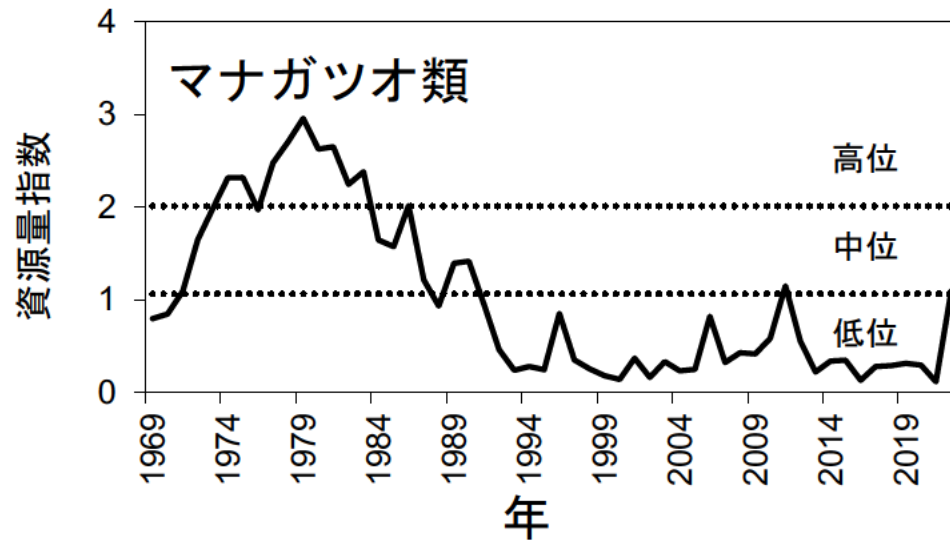
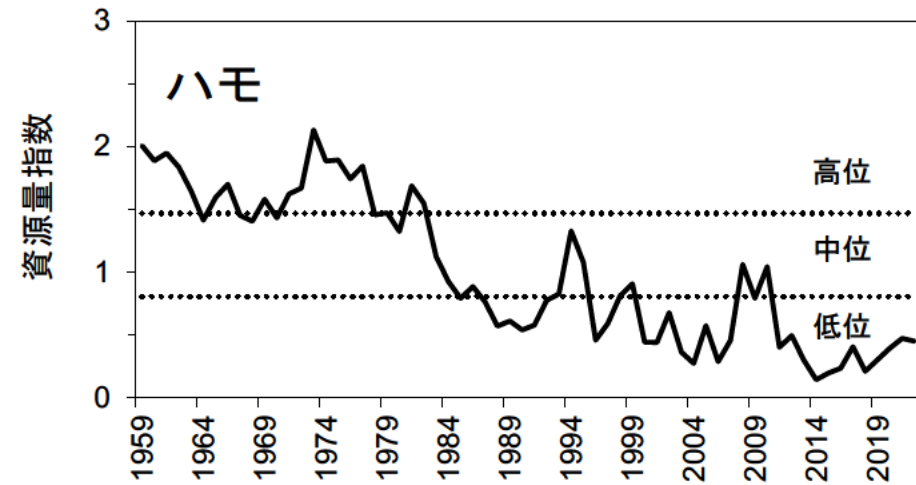
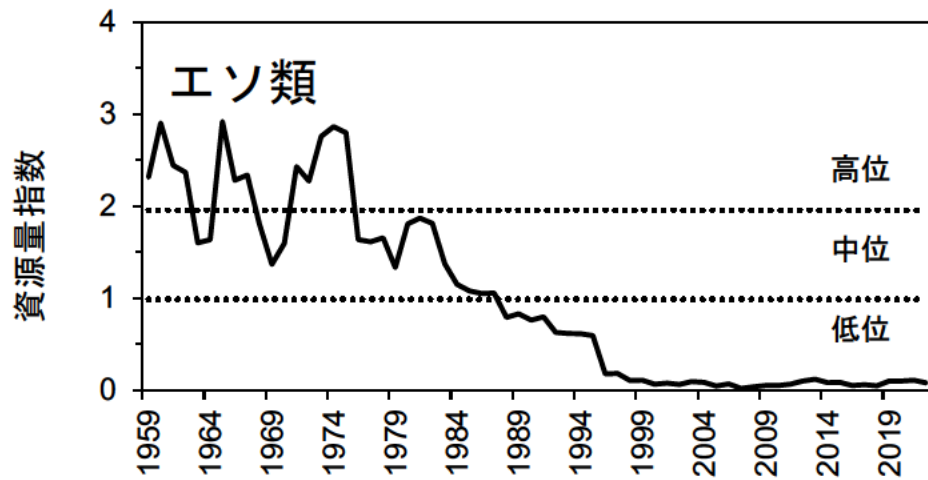


- 2022年の以西底びきによる漁獲量はマナガツオ類（マナガツオ、コウライマナガツオ）：1.0トン、カレイ類（メイタガレイ、ナガレメイタガレイ、ムシガレイ）：7.8トン

資源評価の流れ



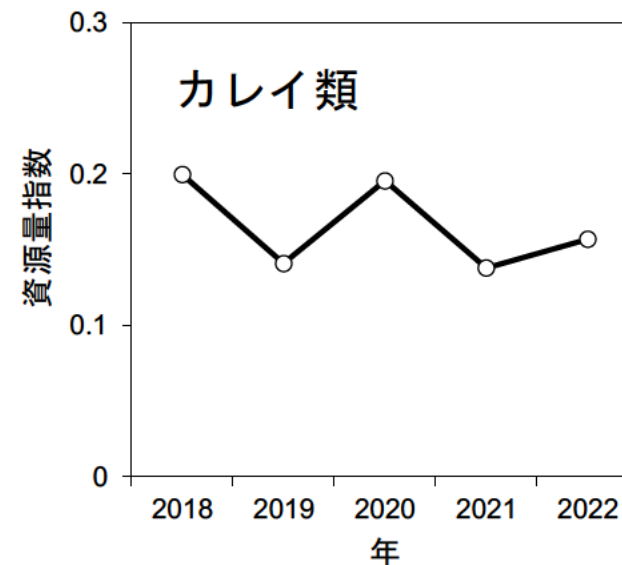
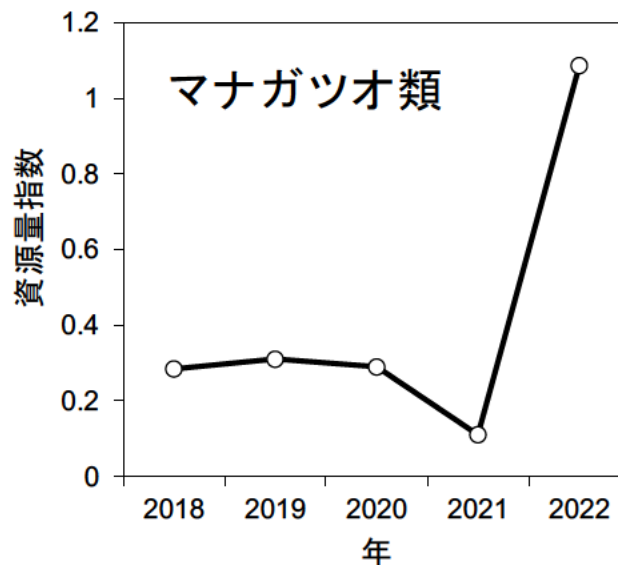
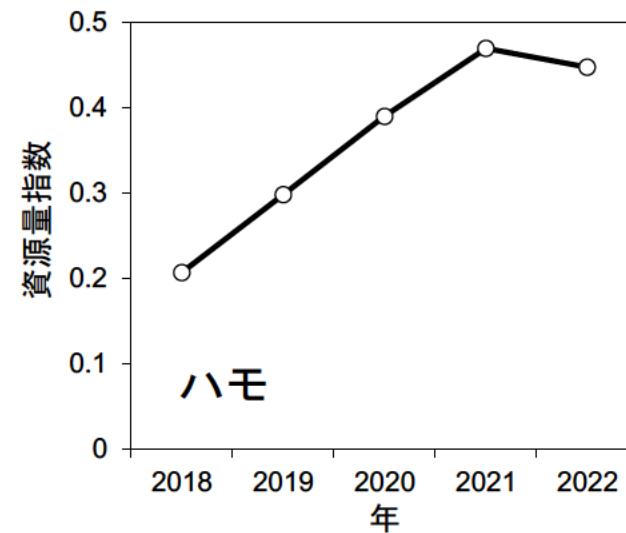
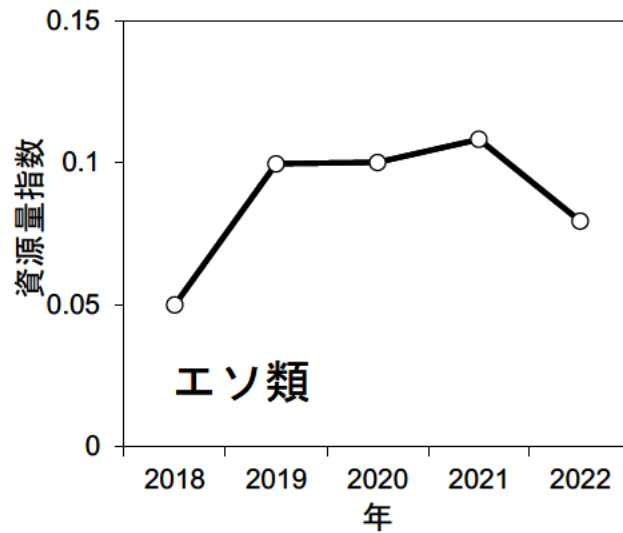
資源の動向①



※水準区分 エソ類、ハモ、マナガツオ類、カレイ類： 資源量指数の最高値と最低値の間を三等分し、低位、中位、高位の境界とした

- 資源水準：資源量指数の2022年の値から、
エソ類、ハモ、カレイ類：低位、マナガツオ類：中位

資源の動向②



- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指数の推移から、エソ類、カレイ類：「横ばい」、ハモ、マナガツオ類：「増加」

資源評価のまとめ

- 資源の水準および動向は、
 - ・ エソ類 「低位」 「横ばい」
 - ・ ハモ 「低位」 「増加」
 - ・ マナガツオ類 「中位」 「増加」
 - ・ カレイ類 「低位」 「横ばい」
- 以西底びきおよび着底トロール調査の結果を用いたVASTモデルによる資源量指数の推移に基づいて資源状態を判断した
- 近年の資源の動向には外国漁船の漁獲圧が大きく影響しているものと推測され、日本漁船は我が国水域内に分布する資源の状態に応じた漁獲を続けるのが適当である